

日台を代表する3人の若手専門家によるトークイベント

# ウナギ資源の持続可能性

資源枯渇が叫ばれるウナギ。「このままではうなぎが食べられなくなる」と言われるが、そうした表層的な問題にとどまるものではない。ウナギ資源問題が投げかけるのは、世界各地の人々が再生可能な天然資源をいかにして持続的に利用していくか、という**グローバルな地球環境問題**である。

**グローバル市場での取引実態、世界各地で破壊される自然環境、科学的データの蓄積と活用、科学に基づく法政策、資源保全に向けた国際協力**…様々な視点からのアプローチを同時並行で考え、実践する必要がある。

本イベントでは、**日本及び台湾を代表する3人の若手専門家(裏面参照)**が、この複雑な問題について多面的に語る。そして会場の皆様との対話を通して、問題解決のための羅針盤を示していく。



2018年9月22日(土) 10:00~12:00

場所: つくば国際会議場 4階 小会議室404

参加無料(無料入場券入手方法は下記参照)

- 場所: つくば国際会議場 4階 小会議室404
  - アクセス情報: <https://www.epochal.or.jp/access/>
  - 秋葉原駅からつくば駅まで「つくばエクスプレス」で45分(快速)、つくば駅から徒歩10分で会場到着
- 定員: 約50人(部屋のキャパシティの都合上)
- 参加費: 無料
  - 参加希望者はTGSW(Tsukuba Global Science Week) 2018のウェブサイト(<https://tgs.w.tsukuba.ac.jp/>)の「事前登録」をクリック頂き、①「チケットを申し込む」→②「無料入場券」(必要枚数を記入)→③「氏名・所属・役職」を記入/「参加予定セッション」(8-16「ウナギ資源の持続可能性」をクリック)→④「確認画面」→⑤「チケットを申し込む」の過程を経て、無料入場券をご入手ください。
- 使用言語: 日本語及び英語(日英同時通訳を導入します)
- 対象者: 食と自然、人間社会の関係に関心のある方であればどなたでも
- ネットワーキングセッション(軽食+ドリンク付/参加無料)
  - 本イベント当日の12:30~14:00に、TGSW 2018の全参加者を対象としたネットワーキングセッション(軽食+ドリンク付/参加無料)がつくば国際会議場1Fで開催されますので、ぜひご参加ください。
- 当日午後のイベント
  - 本イベントは、本年9月20日(木)~22日(土)に開催される筑波大学主催の国際シンポジウム、TGSW(Tsukuba Global Science Week) 2018の中の一つのセッションとして実施されます。TGSW2018では、開催期間3日間において、Driving Sustainable Developmentというメインテーマに関連する40以上のセッションが開催され、世界の様々な国からの参加者がTGSWの会場に集います。
  - 本イベント当日の午後にも、様々なイベントがTGSWの一環で開催されます。  
<https://tgs.w.tsukuba.ac.jp/wp-content/uploads/sites/33/2018/08/timetable-jp.pdf>
  - 午後のイベントにも参加される方は、上記方法で「参加予定セッション」に追加の上、無料入場券をご入手ください。
- レセプションパーティ(有料)
  - 本イベント当日の17:30~20:00に、TGSW 2018の全参加者を対象としたレセプションパーティがつくば国際会議場1Fで開催されますので、参加希望の方は、上記TGSW2018ウェブサイトから有料チケット(一般1000円/学生500円)をご購入ください。

本イベントに関する質問先: [kodama.toru.fu@u.tsukuba.ac.jp](mailto:kodama.toru.fu@u.tsukuba.ac.jp)

# 日本そして台湾から ウナギ資源問題に挑戦する 気鋭の若手リーダー3人が登壇！



## 吉永龍起

北里大学 海洋生命科学部 准教授

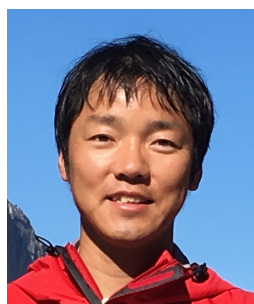
信州大学 繊維学部 応用生物科学科 卒業、同大学院 工学系研究科 応用生物科学 専攻 修了、修士（農学）、東京大学大学院 農学生命科学研究科 修了、博士（農学）。日本学術振興会 特別研究員、スタンフォード大学ホプキンス臨海実験所 博士研究員、北里大学海洋生命科学部 専任講師を経て、現職。ウナギ属魚類の生態と保全に関する研究に取り組み、また鰻の蒲焼をはじめとする水産物の種類をDNA解析により特定する実態調査を行なっている。2009年度 日本水産学会 水産学奨励賞、2009-11年度 北里大学海洋生命科学部 優秀教育賞。東アジア鰻学会 編集担当理事、日本ウナギ会議 実行委員も務める。<http://yoshinagalab.blog>



## ユサン・ハン

国立台湾大学 ライフサイエンス学部 水産科学研究科 教授 兼 研究科長

ウナギ資源の持続可能性に関する分野において、国立台湾大学より修士及び博士号を取得。ポスドクとして、台湾の国立健康研究機構のバイオテクノロジー・薬学部門において、SARS対策用の薬品開発に従事した後、国立台湾大学水産科学研究科の研究者の一員に加わり、エビ・ハタに関する感染症やウナギの生態系に関する研究に従事。現在同研究科の研究科長を務める。2009～2010年にかけて、米国立衛生研究所の客員研究員として、ゼブラフィッシュの性決定に関する調査を実施。これまで50以上のSCI論文を発行し、多くの科学ジャーナルのreviewerを務める。2012～2015年には、国立台湾大学の優秀教員賞を受賞した。



## 岡野 豊

エーゼロ株式会社 執行役員 自然資本事業部長

University of California、Davis生態学修了。トヨタ自動車で14年間、持続可能性戦略の策定と推進を担当。また、世界中で、地域の自然環境やコミュニティと共生する工場づくりを進めた。2017年7月より現職。人口1500人の岡山県西粟倉村で、持続可能なウナギ養殖を目指した“森のうなぎ”ブランドを立ち上げるなど、多様な生き物と楽しく共生する地域経済づくりに取り組んでいる。

## <モデレーター>



## 岡田小枝子

情報・システム研究機構 本部広報室 副室長

筑波大学第二学群農林学類生物応用化学専攻卒業。日立製作所においてバイオ関連の基礎研究業務に従事後、大学教授秘書や医療系フリーライターを経て、2004年より理化学研究所において本格的に広報担当者としてのキャリアをスタート。高エネルギー加速器研究機構広報室、同機構J-PARCセンター広報セクションを経て、現在、情報・システム研究機構本部広報室にて広報業務に従事。また、2007年に国内の研究機関・大学の広報担当者有志のネットワークである科学技術広報研究会を立ち上げ、会長も務める（～2018年9月）。

## <オーガナイザー>



児玉徹 筑波大学准教授/ 一般財団法人国際貿易投資研究所客員研究員

株式会社電通、九州大学芸術工学部准教授、コロンビア大学ロースクール等客員研究員、駐日スウェーデン大使館科学イノベーション部アナリスト等を経て、現職。一般財団法人国際貿易投資研究所客員研究員、国立民族学博物館外来研究員を兼務。東京都立大学卒、大阪大学大学院国際公共政策研究科修士修了、博士中退。英国で法曹養成課程を修了。ロンドン大学キングスカレッジ校ロースクールよりLL.M.取得。英国弁護士会会員。幼少の頃より昆虫を始め様々な生物の生態に深い興味を持つ。